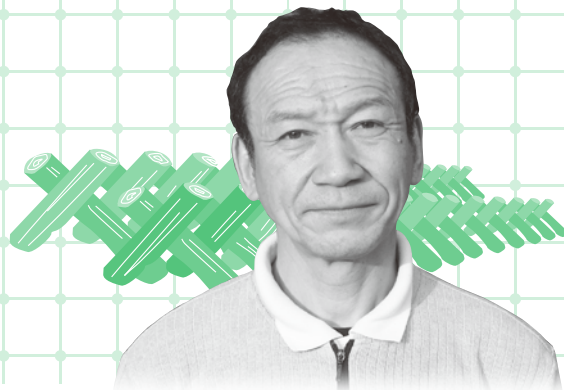


こうほう ショッキング

Vol.61

Kōhō shocking



よし だ ひさし
吉田 永さん

●プロフィール

56歳。巖原町小茂田出身、在住。しいたけ栽培や林業を営む家庭の長男に生まれる。諫早農業高校林業科、岐阜大学農学部林業科を卒業後22歳の時帰郷し、家業に就く。対馬材の普及、PRや後継者育成を目的とする「対馬林業研究会」の会長も務めたほか、しいたけ栽培の経験や優れた生産技術が認められ「対馬・原木しいたけマイスター」に最年少で認定された。父と妻との3人暮らし。

○しいたけ栽培との関わりはいつから？

うちがしいたけ栽培を始めたのは、父の代から。子どもの頃、山について行つては作業の様子を見て「親父としいたけを作る」と決めました。

昔は、栽培すればそれなりの収入がありました。最近の気候の偏りがあつて収穫量が減りました。対策の一つとして袋がけをするなど工夫をしています。対馬の気候そのままに自然の中で育てるのが本物と思つてゐるんです。だから今は袋がけもせず、自然栽培をしています。冬の寒さの中で育つしいたけは、身が締まって肉厚。対馬の美味しいしいたけは、対馬の気候が育ててくれるんです。

実は、東日本大震災による原発事故以降、しいたけ生産者には厳しい状況が続いているんです。一部の地域から出荷されたしいたけから放射性成分が検出されたことに伴つて、学校給食に使用しないよう行政から通達が出されたんです。私たちの地域には全く問題ないことなのですが、風評被害は全国的に広が

り、いまだに回復しません。安心・安全、栄養豊富な対馬のしいたけをもっと多くの人を選んで食べていただきたいものです。

○林業に関してはいかがですか？

ご存知の通り、昔に比べると林業は難しくなりました。現在の住宅の構造は、昔の家に比べて木を使用する量が格段に少ないですから、需要が減りました。それに木を伐つても搬出の手間やコストが見合わず、なかなか手取りにはなりません。対馬材を島外へ売り込んだり、商品化に取り組んだりと努力はされてきていますが、いつも課題となるのは海上輸送の経費がかかること。そこで最近、距離的に近い韓国への輸出が注目されてきました。韓国では近年、内装材として木材を好んで使うようになっており、伐採時期に達しているスギやヒノキの販路として期待されています。

○森の魅力伝える活動もされていますね

「対馬林業研究会」には山林の所有者だけでなく製材業や工務店、公務員など様々な職種の方がいます。その活動の一つ

として、学校で森林教室を行っています。学校が所有する林の間伐や搬出を見てもらったり、その木を使つて子どもたちと椅子や本棚を作る体験をしてもらいます。「木の良さが分かった」「林業ってかっこいい」なんて感想をもらうと、やっぱり嬉しいですね。これからも森や木のふれあいから木の良さ、森の大切さを伝えていきたいです。

○今後の抱負は？

正直なところ、農林業にとつては厳しい状況に変わりはないですから悩みもあります。でも、育てた木がきれいに成長してくれたり、きれいに育つたしいたけを「美味しい」と言つて食べてもらえたりすると、やはり作り手としては張り合いになります。5月にはしいたけの品評会があります。自分の成果として、今年のしいたけがどう評価されるかが楽しみです。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いたたくこのコーナー。次回は上対馬町浜久須にお住まいの園田益也さんです。お楽しみに。